

青が語る〈革新〉と〈古典〉

— 染付が演じたものとは何か？



14世紀、元時代の中国で誕生した青のうつわは、広く深く、世界を席捲^{せっけん}してゆきました。朝鮮や日本といった東アジア、ベトナムなどの東南アジア、イスラム圏の西アジア、そして欧州まで、技法に異同はあれ、白地に青で美しい絵を描くうつわは地理的にも時間的にも、今なお広範な影響力をもち続けています。染付の誕生には、中国と交易を結んでいた西アジアの人々が深く関わったことも指摘されており、そこには染付がもつ世界性があらわれています。

この講座では、中国をはじめとする世界各地の文化において、染付の新しさとは何であったのか、その〈革新性〉を考えます。同時に、染付が担った〈古典〉としての役割を、文献史料をご紹介します。中国最後の王朝である清朝の陶磁文化のありようの中に位置づけます。人類をひとしく惹きつけてやまない〈青〉という色が、陶磁文化の上にどのように現れ、何者として受けとめられ、いかなる役割を演じたのか。その大きな歴史の物語と、青のうつわが象徴的にあらわした文化的意味を、スライドを多用して、わかりやすく紐解いてゆきます。

講師： 柏木麻里（出光美術館学芸員）

慶應義塾大学大学院文学研究科後期博士課程単位取得（美学美術史）。日本・中国陶磁史を専攻。
「古唐津—大いなるやきもの時代」（2017年）「色絵 Japan CUTE！」（2018年）などの展覧会を担当。

講座スケジュール

2019年 3月18日（月）

① 午前10時30分～12時30分（入場午前10時より 閉場午後1時30分）

② 午後2時～4時（入場午後1時30分より 閉場午後5時）

- * いずれも講座の内容は同じです。
- * 講義レベルは、大学での講義に準じます。
- * 各回とも講座のなかで、煎茶とお菓子の休憩時間を設けております。

募集人員： 各回 先着30名
（定員になり次第締め切らせていただきます）

受講料： 2,500円（入館料・資料代／煎茶・菓子付）

会場： 出光美術館
東京都千代田区丸の内3-1-1 帝劇ビル9階
（出光美術館専用エレベーター9階）

申込方法： 当館ミュージアムショップにて事前にお申し込みください。
* 電話等での申し込みはお断りしております。

- * お申し込み時に講座日時指定の受講票をお渡しいたします。当日ご持参の上、美術館受付にてご提示ください。
- * お申し込み後の変更、キャンセルはお受けできませんので予めご了承ください。